

Yumeken

夢けんせつ
DREAM CONSTRUCTORS

秋

2013 Vol.648

◆特集○話題の焦点

「日に新たな館」と「ヤンマーミュージアム」

◆夢インタビュー

奥伊吹の自然と人に魅せられて

◆第19回夢けんせつフォトコンテスト

受賞作品紹介

◆おじゃまします

株式会社デーロス

緊急特集!

**台風18号災害復旧に
緊急出動**



話題の企業ミュージアムを訪ねて

今回は滋賀県内にある2つの企業博物館を、広報委員会のメンバーが訪ねました。独自の技術やものづくりに対する熱い思い、企業の歴史を伝える展示物などを見学したみなさんは業種の枠を超えて「ものづくりの奥深さ」「挑戦することの大切さ」を体感することができたようです。

見学会報告



建設中の太陽光発電プラント

日に新たな館

マテハン・ロジスティクス総合展示場



1994年に開設された「日に新たな館」は、実際の物流現場をイメージしたマテハンシステム・機器の動きを見せることを目的に開設されました。延床面積19,482㎡の館内には、最新

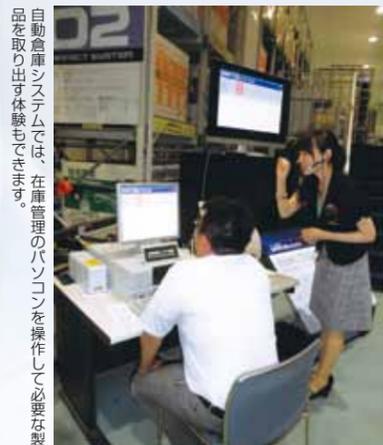


ボディ、エンジン、ドアなどが組み立てられる流れが見学できる自動車組み立てライン



走行速度世界最速500m/分で、1時間に500ケースを処理する超高能力ケース自動倉庫

マテハンとはマテリアルハンドリング (material handling) の略称で、直訳すると機械による作業という意味になり、生産拠点や物流拠点内の原材料、仕掛品、完成品のすべての移動や保管などを合理化して、経済性を高める技術や方法のことです。モノの移動に時間や人がかかると、それだけコストがかかります。フォークリフトやコンベア、パレット、自動倉庫などのマテハン機器を用いて、モノの移動距離の最短化や、在庫量、間違いや破損の最小化などを図ることがマテリアルハンドリングです。1937年に機械メーカーとして大阪で創業した株式会社ダイフクは、戦前はクレーンなどを手がけ、戦後の高度成長期には自動車工場向けのコンベアシステムやボウリングマシン、自動倉庫、無人搬送車、自動車の洗車機などに製品を拡大しました。さらに工作機械と自動倉庫、無人搬送車を組み合わせたFA (ファクトリー・オートメーション) や、近年は配送センターの自動化システムであるDA (デイストリビューション・オートメーション) や、半導体などを生産するクリーンルーム内搬送システムなどの開発・製造を手がける世界有数のメーカーです。蒲生郡日野町にある滋賀事業所は約120万㎡の敷地に、11の工場棟が立ち並び世界最大級のマテリアルハンドリングシステム・機器の生産拠点了。



自動倉庫システムでは、在庫管理のパソコンを操作して必要な製品を取り出す体験ができます。

のシステム・機器150種類400点が展示されていて、一般見学のほか、企業の研修やセミナーなどにも対応、年間約2万人が視察や研修に訪れています。↑階 一行は、シアターで見学前のガイダンスを受けてから、選任スタッフの案内で1階の展示スペースへ。自動車の組立ラインや、工場や配送センターで利用されている保管・仕分け・出荷システムを見学しました。



内部は船のように先端が狭くなっている 釘を使わずすべてロープで組み立てられている 竹林に置かれたシイタケ栽培の原木

湖国 街かどウォッチング

新しく便利になった街や施設をレポートするコーナーです。

バンブーハウス(湖南省)

生えている19本の竹を柱にして建てられた高床式のバンブーハウス



今年5月、湖南省北山台に完成した「バンブーハウス」は、菩提寺まちづくり協議会が荒れ果てた竹林を再生するため、湖南省の助成金を受けて取り組んだ「地域活性化推進事業B・日大作戦」の目玉となる施設です。プロジェクトはまず、協議会のメンバーで倒れた竹などを片付けることから始まり、滋賀県立大学環境科学部環境建築

デザイン学科の陶器浩一教授と永井拓生助教の指導のもと、バンブーハウスの材料になる約3000本の竹が伐採されました。東日本大震災の復興支援で、昨年、宮城県気仙沼市に竹製の集会所を建てた「竹林プロジェクト」の学生さんたちが、菩提寺まちづくりセンターに泊まり込んで、図面を検討しながら約1カ月かけて作業を行いました。竹林に生えている19本の竹を柱として利用して、釘を使わずロープで伐採した竹を組み立ててゆき、屋根には細かく割った竹を置いて、中央にアクリル板をはめた明かり取りが設けられました。



菩提寺まちづくり協議会 ☎0748-74-3471 http://machikyo.shiga-saku.net/



天井にはアクリル板をはめた明かり取りが設けられている。

CONTENTS

湖国街かどウォッチング……………	2
バンブーハウス……………	2
特集・話題の焦点……………	3
話題の企業ミュージアムを訪ねて……………	3
日に新たな館……………	3
ヤンマーミュージアム……………	6
夢インタビュ……………	6
奥伊吹の自然と人に魅せられて切り絵作家 早川鉄兵さん……………	7
里おこし最前線……………	7
伊吹の魅力伝える……………	7
里おこしイベント「伊吹の天窓」……………	7
第19回……………	8
夢けんせつフォトコンテスト……………	8
受賞作品紹介……………	8
おしゃまします……………	14
株式会社テーロス……………	14
緊急特集……………	16
台風18号災害復旧に緊急出勤……………	16
近江うまいもの紀行……………	18
バスル/当選者発表……………	18
「仕事の達人・遊びの達人」……風を感じてゆっくり走るツリーングの楽しみ……………	19
協阪 規……………	19
編集後記……………	19
表紙写真……………	19
「集中」武内 勇雄……………	19
「彦根城水鏡」岡 光明……………	19

ヤンマーミュージアム



田植機の仕組みなども紹介されている



最新のトラクターやコンバインの乗り心地を体験する



エントランスに展示されたドイツ・MAN社のディーゼルエンジン



スタッフの指導を受けながらパワーショベルの操作が体験できる

2階は歴代のエンジン展示するエンジンギャラリー、屋外スペースにはピオトープやエンジン熱を

2012年に創業100年を迎えたヤンマー株式会社。その間、世界の多くの人々に支えられてきたことへの感謝と、同社が培ってきた技術や文化を発信するために、創業者である山岡孫吉氏の出身地・長浜市に2013年3月にヤンマーミュージアムを開設しました。同社が手がける発動機や農業機械、建設機械、小型船舶などが展示されていて、見て、触って、動かして体験できる施設です。

エントランスでは、小型実用化の原点となったドイツ・MAN社のディーゼルエンジンのレプリカが見学者を迎えてくれます。一行は、世界で初めてディーゼルエンジンの小型実用化に成功した、山岡孫吉氏の功績を紹介する山岡孫吉記念室を訪れ、ディーゼルエンジンの仕組みをCG画像で紹介するエンジンシアターを見学した後展示室へ。田植機のほか、冷暖房完備の最新のトラクターやコンバインの乗り心地を体験しました。

続く「まちづくりゾーン」では、実際にパワーショベルを操作し、「海洋ゾーン」ではフレジャーボートの操縦体験をし、さらに「エネルギーコーナー」ではゲーム感覚で省エネシステムについて学ぶことができます。

再利用した足湯が設けられています。

同ミュージアムでは長浜市内の体験農園でお米や野菜づくりの農業体験を実施しているほか、「ピオトープ観察会」や「木製エンジン組み立て体験」などのワークショップも開催しています。



館内スタッフが体験のサポートや展示物の説明を行っている

2基のクレーン車がすれ違い走行して、1時間に2,200ケース以上を処理できる保管・仕分けシステム「DUOSYS」



レーザーガイド方式を採用した全方向移動型無人搬送車



配送センターのピッキングや仕分けエリアで活躍するさまざまなシステム、ラックやカーゴ、ボックスパレットのほか、半導体工場向けのクリーン搬送システムなどが展示されています。



商品をパレットに積上げたり下ろしたりするパレタイジングロボット



軌道式天井走行台車がウエハ専用の容器を高速搬送する、半導体工場向けのクリーン搬送システム



棚などに取り付けられたデジタル表示器の指示に従って、商品を積み取っていくデジタルピッキングシステム



大量の商品を高速で自動的に仕分ける「サーフィンソーター」

最後に、現在、滋賀事業所の敷地内に建設中の太陽光発電プラントを見学しました。工場棟や調整池、カフェテリアなどが点在する広大な敷地を車で移動すると、まるで海外の生産拠点に来たような印象を受けました。プラントの面積は約5.2万㎡、430万kWhの年間発電量が見込まれています。

株式会社日に新館

滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225
株式会社ダイフク滋賀事業所内
TEL. 0748-53-3970
開館時間 AM9:00~PM5:00
休館日 日曜日、月曜日、祝祭日
入館料 1,050円
見学は予約制、下記のホームページの「見学お申し込みページ」から申し込みます。
<http://www.daifuku.co.jp/hinariatakan/ja/index.html>

ヤンマーミュージアム

長浜市三和町6-50 TEL. 0749-62-8887
開館時間 10:00~18:00
休館日 月曜日、年末年始
入館料 大人600円 中・小学生300円
<http://www.yanmar.co.jp/museum/index.html>

奥伊吹の自然と人に魅せられて

鹿やリス、ウサギや熊などの動物たちと、彼らの生命を育む伊吹の森...
1枚の切り絵の中に伊吹のさまざまな動物たちと豊かな自然がいきいきと表現された早川鉄兵さんの作品。
伊吹に魅せられて移り住み、伊吹の自然と暮らしをテーマに創作活動を行っている早川さんにお話をうかがいました。



伊吹の自然をモチーフにした早川さんの作品。見る人に先入観なく楽しんでもらうためにタイトルは付けられていない。



以前は大阪におられたというのですが、米原に移り住むきっかけとなったのは、カヌーのアシスタントとして、米原市の事業「親子の絆プロジェクト」の写真撮影のために米原を訪れたことがきっかけとなって、ここに住んでみたいと思うようになりました。「水源の里まいばら みらいつくり隊」(地域おこし協力隊)という取り組みがスタートすることを知り、第1期隊員に応募して平成28年にこちらに移り住んできました。
みらいつくり隊のメンバーとプロジェクトの活動を教えてください。
懇話会で地域のみなさんと解決すべき問題などについて話し合いながら、地域支援活動に取り組みました。具体的には活性化を目的としたイベントの企画開催のほか、地域資源の活用についてアイデアを出したり、地域の魅力を伝える活動を行ったりしました。こういった活動と並行して、隊員は定住を目指して各々の職能や経験を活かしながら、この地域で自立して生活していく方法を探そうとしています。

地域おこしイベント「伊吹の天窓」に関わられるようになったきっかけは、

実行委員会から、会場となったお寺の本堂や境内をディスプレイする切り絵の制作を依頼されました。約100点の切り絵を制作、ライトアップで障子や灯籠に伊吹の自然や動物たちが浮かび上がるようにしました。

昨年の第2回目からは会場が奥伊吹スキー場に移り、ゲレンデに設置したテントに作品を展示してはどうかと考えたんです。
ゲレンデに浮かび上がった切り絵の動物たちの素晴らしさが多くの人々を魅了しましたが、制作されるのは大変だったのではないのでしょうか。



森に住む動物たちや自然との一体感を感じてもらいたのではないかと思います。
切り絵はいつ頃から始められたのですか。



早川鉄兵さん

○はやかわ てっぺい
切り絵作家

3歳の時に母親と一緒に切り紙遊びをした事をきっかけに切り絵を始める。平成23年、水源の里まいばら みらいつくり隊員として米原に移住。里おこしイベント「伊吹の天窓」で切り絵を担当。平成24年、東京・銀座にて「天神の森」個展を行う。

3歳くらいから、はさみで紙を切って遊んでいたのがルーツですね。生まれ育った金沢で、山や川へ遊びに行くと、印象に残った動物や植物を切り絵のテーマにしてみました。カヌーマンを目指して大阪で仕事をしていた時も、自分の作品として撮るのは自然でした。
奥伊吹を拠点に活動されていますが、早川さんにとって伊吹の魅力はどんなところにあるのでしょうか。

現在は、曲谷^{まがた}という約25軒からなる小さな集落に住んでいます。皆さんに温かく迎え入れていただき、みんな顔見知りという安心感と、毎日の当たり前の生活の中で、移り変わる山の表情や満天の星空を見上げて感動するといった日々がとっても気に入っています。

集落全体が大きな家族みたいなもので、お寺には住職さんがおられず、みんなでお寺を守っています。自分の子どもをこんな環境の中で育てることができれば素晴らしいですよ。ここに住んで、自然の厳しさ、素晴らしさ、人の温かさなど、感じたことを多くの人に伝えていきたいと思っています。



観客もいっしょに踊った「雪ふみ行進」

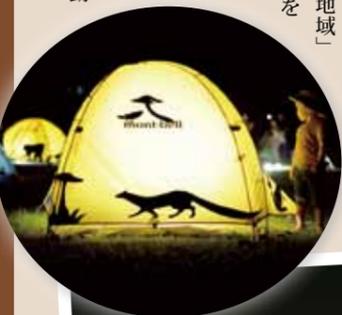
里おこし最前線

伊吹の魅力を伝える里おこしイベント「伊吹の天窓」



実行委員会の石河 学さん

「**「ならでは」の魅力を伝える里おこしイベント**」
米原市出身のシンガーソングライター・真依子(まいこ)さんと、同じく米原市出身のデザイナー・石河学さんが、何か地元のためにできることはないかと企画したのが、「人と人」「人と地域」「地域と地域」が有機的な交流を図ることを目的にした里おこしイベント「伊吹の天窓」です。
第1回は甲津原にある行徳寺で開催され、2回目からは会場を奥伊吹スキー場に移して800人の観客を動



ゲレンデに張ったテントに浮かびあがった早川鉄兵さんの切り絵



8月10日、奥伊吹で第3回「伊吹の天窓」というイベントが開催されました。満天の星空の下、心に響くステージと幻想的な切り絵のライトアップ、地元の食材を使った料理や手作りの品など、訪れた人々は伊吹の魅力を満喫していました。
過疎地の定住促進・産業振興を
目指して
平成17年に旧坂田郡の4町が合併して誕生した米原市。人口は約4万人、日本百名山の一つ・伊吹山と姉川の源流域の豊かな自然が大きな魅力ですが、中山間地域では少子・高齢化と過疎化が進み、田畑の荒廃や集落の維持が深刻な問題となっています。
米原市では平成21年に「水源の里まいばら元気みらい条例」を制定して、総務省が支援する「地域おこし協力隊」を活用した「水源の里まいばら みらいつくり隊」事業をスタートするなど、定住促進や産業振興などに取り組んできました。

員、3回目の今年は1,300人が来場しました。
野外ステージでのコンサート、地元の食材を使った料理などの屋台「星空食堂&手作り市」のほか、奥伊吹地域のよつかい事「雪かき」を、ユーモラスなダンスに振り付けた「雪ふみ行進」紹介など、訪れた人々に伊吹の暮らしや自然を伝える「ここにしかない」「ならでは」を大切にしたい内容のイベントです。
今年も早川鉄兵さんの切り絵と贈美弥さんのイラストによる、真依子さんの絵本「イブキの星」がステージで上映されました。



花と食のマルシェ
開期 10月12日(土)~20日(日)
会場 グリーンパーク山東 グリーンドーム
入場料 200円(高校生以下は無料)
問い合わせ グリーンパーク山東 0749-55-3751
http://fff-marche.com/

伊吹から県内外に広がる交流の輪

実行委員会の10人のメンバーの中には、奥伊吹の住民のほか、みらいつくり隊の元メンバーと現隊員、地元生まれで現在は米原市以外で暮らしている人などが含まれているた

め、さまざまな視点から奥伊吹の魅力を捉え、それをどのように発信しているかアイデアを出し合えるのが強みとなっています。
行政側(米原市)からの理解と協力も得られて、「企画の部分から関わってもらえることも大きな力になっています」と石河さん。米原市からの紹介で、今年も舞台装飾に滋賀県立大学生活デザイン学科の佐々木一泰さんの協力を得ることができました。
「100点満点の運営を目指して、来年はさらに良いものにしていきたい」と言う石河さん。伊吹の地にしつかりと軸足を置きながらも、滋賀県内、県外とのさまざまなつながりが広がっています。

この秋には、グリーンパーク山東の国際花市場と、伊吹の天窓がコラボレーションした「花と食のマルシェ」が開催されます。切り絵や鉢花の展示即売と、伊吹の天窓がセレクトした食べ物や手作り雑貨のお店を集めたイベントになります。

アートディレクションを担当する石河さんは、「さまざまな新しい展開の可能性を模索しながらも、基本のコンセプトがぶれることのないよう活動の輪を広げていきたい」と、これからビジョンを描いています。

滋賀労働局長賞
「壁のお化粧」 城田 祥男〔京都府〕



評

制約されたカメラアングルだ
と思いますが、うまくまとめら
れました。

一般社団法人滋賀県土木施工管理技士会会長賞
「親方の貫禄」 田中 貴之〔大阪府〕



評

親方の視線の先に何があ
るのでしょうか。真剣な表情、
また足元から立ち昇る煙が
画面に臨場感を与えます。

独立行政法人勤労者退職金共済機構建退共滋賀県支部長賞
「ミクロンの闘い」 黒田 敏夫〔静岡県〕



優秀賞

評

うまくまとめられた構図です。
これ以上絞るものはないと
思います。鉋屑を見ると、こ
の人の腕が見てとれます。



建設業労働災害防止協会滋賀県支部長賞
「塗」 河村 直子〔滋賀県〕

評

三人一組で塗装作業をされてお
ります。暑い日差しを受け、ご苦
勞が見てとれます。単調な画面を
3人の影が引き締めております。

入選

「お昼どき」
田中 敏夫〔神奈川県〕



「現場に働く」
岡田 輝夫〔愛媛県〕



特別賞



BBCびわ湖放送株式会社賞
「雨にも負けず」 山内 昌人〔滋賀県〕

評

厳しい現場作業の作品が多い中でこの作品を
見ていると、ほっとします。特に人形と人物の
顔が目を引きまます。傘を差しているのが、単なる
記念撮影を超えた作品となっています。

PHOTO 第19回 CONTEST 入賞作品

●審査員／滋賀県写真連盟 会長：永繁 昭 並びに主催者

- 主催／一般社団法人滋賀県建設業協会
- 後援／滋賀県、滋賀労働局、一般社団法人滋賀県建設産業団体連合会、西日本建設業保証株式会社滋賀支店、滋賀県建設業協同組合、一般社団法人滋賀県土木施工管理技士会、建設業労働災害防止協会滋賀県支部、独立行政法人勤労者退職金共済機構建退共滋賀県支部、びわ湖放送株式会社、株式会社SIN
- 協賛／滋賀県写真連盟、滋賀県カメラ材料商組合、株式会社トミカラー

入賞作品展
のお知らせ
入場無料

- 10月26日(土) ポリテックビジョン滋賀
滋賀職業能力開発短期大学校(ポリテクカレッジ滋賀)
- 11月16日(土)～11月17日(日) おうみごと体験フェスタ
滋賀県立文化産業交流会館または米原市米原公民館
(滋賀県米原市下多良2丁目137)
- 11月中旬 建設業雇用改善推進大会
大津プリンスホテル(予定)
(滋賀県大津市におの浜4-7-7)
- 平成26年2月頃予定 短期大学学生発表会
滋賀職業能力開発短期大学(ポリテクカレッジ滋賀)
(滋賀県近江八幡市古川町1414)

第一部
「建設業にはたらく人々」
第二部
「滋賀の自然や町並みに
マッチした建築構造物」

	応募者数	応募点数	第一部	第二部
総数	178人	313点	169点	144点
内訳	県内	97人	59点	109点
	県外	81人	110点	35点

審査後記

滋賀県写真連盟会長 永繁 昭

今年も全国各地から多くの作品が寄せられ応募者各位の熱い思いが作品を通じて伝わってきました。一次、二次と審査を進めていく中でいずれも秀作で審査員一同大変悩みました。1部の作品ではどの作品にもプロの職人の働く姿に躍動感と真摯があり感動しました。また、2部の作品では過去に見られなかったアングルや場所で撮影され、新しい滋賀の魅力が発見できた素晴らしい作品が多く見られました。

第一部
「建設業にはたらく人々」
(デジカメ・カメラ可)

グランプリ

滋賀県知事賞
一般社団法人滋賀県建設業協会会長賞
滋賀県写真連盟会長賞
「集中」 武内 勇雄〔愛媛県〕



評

真剣なまなざしがまず目を引きまます。斜め構図で力強く表現されました。非常にいい作品だと思います。

第二部「滋賀の自然や町並みにマッチした建築構造物」

(デジカメ・カメラ可)

グランプリ

評

秋の彦根城を写された作品ですが、水面に映る秋の彦根城を、城と紅葉を中心に作画したことが成功の要因です。



滋賀県知事賞
一般社団法人滋賀県建設業協会会長賞
滋賀県写真連盟会長賞

「彦根城水鏡」岡 光明 [福島県] <滋賀県彦根市>

優秀賞

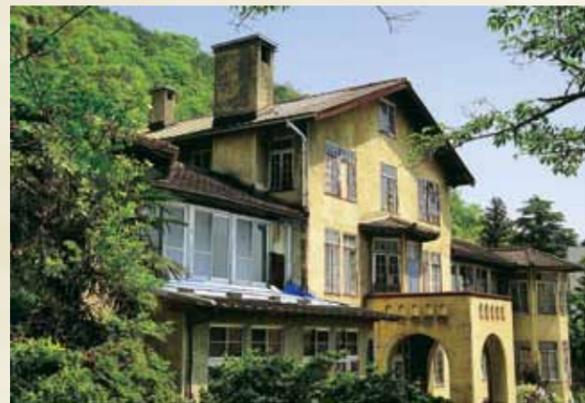


西日本建設業保証株式会社滋賀支店長賞

「夢京橋雪の朝」

さうりき 強力 美津雄 [滋賀県] <滋賀県彦根市>

評 冬の時間帯に写されたものと思います。登校する子供を見守り人を中心に作品としてまとめられました。特に子供たちの動きが感じられるシャッターチャンスが素晴らしいです。



滋賀産業新聞賞

「ヴォーリス建築ツッカーハウス」

大町 誠一 [滋賀県] <滋賀県近江八幡市>

評 隙のない構図でカメラポジションもすばらしく、由緒ある建物を現代に甦らせた素晴らしい作品です。



「朝礼光景」

杉浦 幸男 [愛知県]

「真剣な眼差し」
佐々木 茂 [秋田県]



「急勾配作業」
相馬 勉 [青森県]



「前略、屋根の上より」
杉本 弘樹 [滋賀県]



「集」東 秀樹 [滋賀県]



「熱中症対策」
上田 利明 [滋賀県]



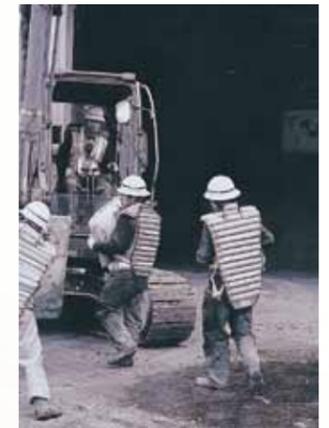
「仕上げ日和」
岡田 健司 [滋賀県]



「熔接」
杉浦 幸雄 [愛知県]



「頑張りゆげせよ」
竹村 悦子 [高知県]



「トンネル工事中」

長崎 靖弘 [大阪府]

奨励賞

「朝」
万木 秀喜 [滋賀県]



「高所作業」

三木 浩司 [京都府]



「夜間、トンネル内で働く人々」

森野 良彦 [滋賀県]



「家路」
渡辺 克実〔滋賀県〕〈滋賀県彦根市〉



「白い蔵」
高村 利和〔滋賀県〕〈滋賀県近江八幡市〉



「菜の花エコプロジェクト」
福田 尚人〔滋賀県〕
〈滋賀県東近江市〉



一般社団法人 滋賀県建設産業団体連合会長賞
「茜色の学び舎」
前河 栄次〔滋賀県〕〈滋賀県犬上郡甲良町〉

評
光の具合がよい時に撮影されていて、ピントもよいと思いますし、学び舎の色彩に変化を作っておりすばらしい作品だと思います。



滋賀県建設業協同組合理事長賞
「菅浦集落と漁港」
山田 昌江〔滋賀県〕〈滋賀県米原市西浅井町〉

評
珍しいアングルがまず成功した第一のポイントでしょう。春の北琵琶湖の集落の佇まいがよく表現されています。



「新緑の中に」
奥居 由紀夫〔滋賀県〕〈滋賀県甲賀市信楽町〉



「黄昏の浮御堂」
木下 博貴〔愛知県〕
〈滋賀県大津市堅田〉



「こんなに近い所で」
小島 甲喜〔滋賀県〕
〈滋賀県甲賀市〉

特別賞



BBCびわ湖放送株式会社賞
「夏のゆり園」岡本 聖
〔京都府〕〈滋賀県高島市〉

評
窓に映った虚構と実像をうまくまとめ、また奥行の出し方も適切であったと思います。

入選



「水面に映えて」
久保田 修〔兵庫県〕
〈滋賀県近江八幡市〉

奨励賞



「金亀の酒蔵と町並み」
中原 文雄〔大阪府〕
〈滋賀県犬上郡豊郷町吉田〉



「リズムに合わせて」
大西 宏徳〔愛知県〕
〈滋賀県長浜市曳山博物館〉



「秋のプロムナード」
奥村 芳明〔滋賀県〕
〈滋賀県草津市〉



「里山の秋」
中川 恵太郎〔滋賀県〕
〈滋賀県高島市小入太〉

「雪の安土城博物館」
堀川 辰也〔滋賀県〕
〈滋賀県近江八幡市〉



「弥生の森」
井上 先夫〔滋賀県〕
〈滋賀県野洲市〉



「街道を行く」
林 武男〔滋賀県〕
〈滋賀県近江八幡市〉

「対比」
居原田 晃嘉〔京都府〕
〈滋賀県長浜市〉



社会資本の維持・補修で地域の暮らしを守る。

株式会社デーロス

長浜市木之本町木之本

代表取締役社長

湯本

聡



本社社屋

コンクリート構造物の補修技術を導入

一昨年、会社設立50周年を迎えた株式会社デーロス。前身は大正13年に田中組として伊香郡塩津村で創業、後に田中建設株式会社となり、平成16年に現社名に商号変更しました。同社では長年、橋梁や道路などの土木工事に携わってきましたが、10年程前から工事数が落ち込み、何か活路を開く方法はないかと模索する中から、新しい技術を導入してコンクリート建造物の補修をメインに手がけるようになりました。

「当時は環境関連の新事業に進出する建設会社が多く、法面緑化を研究する集まりで、たまたまウオータージェットに関する情報を入手したことがきっかけとなりました」と言う湯本聡社長。

ウオータージェット工法は、超高压水を利用して劣化したコンクリートの表面を取り除いた後、形成・表面処理を行うことで再生する技術です。削岩機に比べて振動が少なく、変形や

その他にもひび割れ注入工や断面修復工といったさまざまな補修や補強工事、防水・防食工事などを手がけています。

また、JR関連事業として、鉄道の法面や盛り土、橋梁などの構造物の調査点検業務も行っていきます。湯本社長は「鉄道の場合、定期的に点検して早期に補修を行うシステムが確立されているが、将来これが道路にも導入された場合に対応できる体制を社内構築していきたい」と考えています。

コンクリートの補修をメインに、調査から施工まで責任施工体制をとっているため、同社では社員に技術や知識の研鑽を奨励してきました。特にコンクリート診断士の資格取得を呼びかけ、各拠点に1人は配置できるようにしていく予定です。

課題は技術の担い手の育成

グループ内には、社会福祉法人や介護サービスを提供する田中ケアサービスがあります。10年前、岐路に立たされた時、介護にシフトするか、環境関連ビジネスに参入するか、それとも何か独自の性の高い技術を導入して土木の仕事が続けていくか悩んだ末、幸いなことにそれまで積み重ねてきたことが活かせる技術に出会うことができ、経営も徐々に安定してきました。

課題は次世代の育成をいかに進めていくかで、湯本社長は地道に学校をまわるなどして、担い手探しに取り組んでいます。技術の継承に本

ひずみといった構造物への影響が少ないこと、鉄筋を傷めることなくコンクリートの劣化部分だけを除去できることが特徴です。

「もともと洗浄や清掃に使われていた超高压水発生装置を導入した時は、まだ滋賀県内で土木工事に利用しているところはなかったと思いついた」と湯本社長。湖北、湖西地域では融雪剤をよく使ったため、コンクリートの劣化が進みやすく、将来需要が伸びる技術になると期待を寄せています。

独自の技術・工法の構築にも取り組む

同社では他にもさまざまな新しい技術の導入・開発に取り組んできました。例えば農業用水路補修工法の「靱性モルタルライニング工法」は、劣化部分をウオータージェット工法で取り除いた後、粘り強くひび割れしにくい高靱性繊維補強セメントを吹き付ける工法で、同社が独自技術として施工法を確立したものです。従来の補修工事より工期も短く、耐久性にも優れているのが特徴です。

「気が取り組まないといけなくなっているが、若い人がなかなか建設業に目を向けてくれない」と厳しい現状を指摘します。

東日本大震災後、被災地で復旧に取り組み建設業者の生の声を聞くと、仙台市の建設業協会を訪ねたという湯本社長。「震災直後に、自らも被災しながら復旧工事に携わり、ニュースなどでは報道されないが、ご遺体を納める棺を作って埋葬を行ったのも地域の建設業者だったそうです。地域の安全を支えて、イザという時に頼りになる地元建設業者のことを、もっと多くの人に知ってもらうことが必要ではないか」ということばでインタビューを締めくくりました。



湯本 聡社長



靱性モルタルライニング工法で補修された開水路や石積み水路



コンクリートの劣化部分を超高压水で取り除くウオータージェット工法



処理水を回収しながら表面除去作業を行うこともできる



舗装白線の除去や舗装面のすべり抵抗性回復処理などにも活用できるウオータージェット工法



「技術の継承に本



鉄道関連構造物の調査点検を行うJR関連事業

緊急特集!! 台風18号災害復旧対応

台風18号災害復旧に 緊急出動



県内各地で浸水や 土砂災害が発生

平成25年9月15日～16日にかけて滋賀県を襲った台風18号は、大きな爪痕を残して過ぎ去っていった。

滋賀県は15日23時15分に災害対策本部を設置し警戒を強め、各市町も16日朝までに警戒本部から災害対策本部に移行した。

15日22時50分に甲賀市信楽町西区に避難勧告が発令されたほか、各市町で避難指示や避難勧告が相次いで発令され、翌16日10時00分時点での県内の避難人数は11,248人にもなった。

気象庁は16日5時5分に滋賀県、京都府、福井県に、全国初の特別大雨警報を発令した。

特別大雨警報は数十年に一度の大雨となる恐れが大きい時に発表し、降水量が警報の基準を大きく超えるような大雨に発令するものである。降り始めからの降水量は大津市高川で635mm、東近江市御在所610mm、君ヶ畑595mm、永源寺572mm、高島市針畑535mm、甲賀市大河原523mmとなった。

被害も栗東市下戸山での民家3軒の土砂災害により71歳の女性が死亡、大津市石場ではJRの法面が崩落し、土砂がアパートの室内に流入して1名が軽傷を負うなど、人的被害は7名にのぼった。

高島市宮野の鴨川右岸堤防が決壊など、河川の氾濫により多くの家屋、道路が浸水、護岸の欠損、土砂崩れが相当箇所あった。

大津市大谷町での国道1号線では3力所の土砂崩れ、そのほか数百力所を越える道路災害が各地で起こっている。

防災協定に基づき 災害復旧に出動

滋賀県建設業協会では16日朝、滋賀県より防災協定に基づく出動要請があり、各支部と連携を取り災害復旧に当たった。連休でもあったが、各支部も市町からの要請を受け、多くの会員企業が災害復旧に出動した。

多くの建設業者が災害現場にいち早く駆け付け、地域のライフラインを守る行動を起したことは、東日本大震災でも目の当たりにしたことがあるが、建設業者の力強さや頼もしさが見えた一面でもあった。

地域を守る建設業として、責任ある行動を起すことが、早期の災害復旧に繋がる。今回の大災害の経験から、すばらしい対応力がある会員企業が多いことが実証できたのではないだろうか。



ゆっくり景色を楽しみながら走るのがバイクの魅力だ

仕事の達人、遊びの達人 私のオフタイム

風を感じてゆっくり走る ツーリングの楽しみ



脇阪 規 脇阪電設株式会社

若い時からバイクに乗っていましたが、20年ほど前に次男が乗っていた大型二輪「Hondaゴールドウイング」を譲り受けてから、本格的にツーリングを楽しむようになりました。初めは一人で乗っていたのですが、ゴールドウイング愛好家の集まりに行くと、サイドカーを付けて奥さん同伴で来る人が多いことに気がきました。そこで、サイドカーと荷物を積むためのトレーラーを付けて、妻といっしょにあちこち旅してまわるようになりました。安全運転でゆっくりと景色を楽しみながら走り、行く先々で地元の人と交流したり、おいしいものを探したりするのが楽しみです。

忙しい仕事の合間に時間を見つけては、北海道の宗谷岬から九州の指宿まで足を伸ばしました。特に北海道には3度行きましたが、真つづくに続く道を走る爽快感は北海道でしか味わえない楽しみです。バイクの良いところは、360度の景色が楽しめること。風を感じながら走っていると、その土地土地の匂いも伝わってくるような気がします。

バイクに乗るようになって良かったことは、日本各地に職業や年齢の異なる仲間がたくさんできたことです。ツーリング仲間から、訪ねる先の情報を提供してもらったり、旅先で困ったことがあったら助け合えるのも有り難いです。



震災までは、年に一度東北で開かれていた「ウイング会」という集いに出席して、地元の警察の協力を得て、マナー向上や交通安全を啓発するパレードに参加していました。今は東北が復興して、また仲間が集う日が来ることを願うばかりです。

60歳を超えて、ようやく自分の時間が取れるようになったので、大好きな北海道を、今度はゆっくり時間をかけてまわりたいと思っています。



サイドカーの妻と無線で会話を楽しみながら走る

宮城県で行われた交通安全啓発パレードに参加

After Word



ついに行ってまいりました！奥伊吹スキー場での『伊吹の天窓』。現地へ向かっている時はどんなイベントだろう？と思いましたが到着してみてもまず感じたことは「涼しい！！」でした。そして辺りを見渡せば一面のロハスな人！右見てロハス左見てロハス、ビールで酔わずにロハスな雰囲気には酔いしました。いろんな出店あり、野外ライブあり、テントに組まれた素敵な天窓ありで充実した一日となりました。めでたしめでたし。



季刊夢けんせつ秋号

2013年(平成25年)10月10日

通巻第648号

発行 (一社)滋賀県建設業協会

〒520-0801 大津市におの浜一丁目1-18

TEL.077-522-3232(代)

FAX.077-522-7743

http://www.yumeken.or.jp

企画編集 広報委員会

協力・印刷 宮川印刷株式会社



滋賀B級グルメバトルで見事2年連続グランプリに輝いた「あさみや金時」。甲賀市信楽町上朝宮で茶舗を営む株式会社山本園の人気メニューとして考案されたもので、抹茶と煎茶等をブレンドした自家製抹茶蜜や、お茶を練り込んだ白玉と上品な小豆、淡雪のように繊細な氷との絶妙なマッチングが高く評価されました。

抹茶蜜のかかった氷の山は茶畑を、小豆は良いお茶づくりに欠かせない良質の土を、白玉はお茶を刈り取る人の姿を表現しています。

朝宮でお茶の栽培が始まったのはおよそ1200年前からだとはいえます。

最後の決戦となった今年のB級グルメバトルは、スタッフを総動員して、8月3日、4日の2日間で6500食を販売しました。「1分間に10個の『あさみや金時』を作ったスタッフのがんばりを讃えたい」と言う山本社長。「あさみや金時」を大津市内のお店のメニューに加えても良い、滋賀を訪れた人にもぜひ食べてほしいと思っています」と言う山本靖社長。



「朝宮茶スイーツ」「あさみや金時」(甲賀市)



株式会社山本園
甲賀市信楽町上朝宮275-1
☎0748-84-0014
http://www.yamamotoen.co.jp/



質問の答えで○を埋めてください。○を入れ替えてつなぐと？

ヒント 特集「話題の焦点」

1. ヤンマー株式会社の創設者・山岡孫吉が世界で初めて小型実用化したのは？
○○○○○○○○○
2. マテリアルハンドリングを略して言うと？
○○○○○○○○○
3. 日野町にある株式会社ダイフクの企業ミュージアムの名称は？
○○○○○○○○○
4. 2013年3月に長浜市にオープンした博物館は？
○○○○○○○○○

前号の答え「丸亀町(マルガメマチ)」

パズル&クイズ 当選者	西村 道子さん	長原 武夫さん
	東 経彦さん	白谷 真宏さん
	今若さだ子さん	寛 幸子さん
	奥野 仁史さん	辻本 幸子さん
	浅田 政郎さん	居原田晃嘉さん

応募方法

- P&Q及びアンケート(返信用添付ハガキ)の両方にお答えいただいた方の中から抽選により粗品を進呈します。ふるってご応募ください。
- 別のハガキにてご応募の方も住所、勤務先(学校名)、氏名及びP&Qの答え、アンケート、メッセージ等を書いて送付してください。
- 締め切り 平成26年1月20日必着
- あて先
〒520-0801 大津市におの浜一丁目1-18
(一社)滋賀県建設業協会 広報委員会

